

勝間田氏の里

勝間田氏ゆかりの地として、勝間田川流域には現在も勝俣、勝間、勝田などの地名が残っています。中流域に小仁田薬師堂・長興寺・中村(穴ヶ谷)城、下流域・河口部には龍眼山砦・清浄寺、石雲院(坂口谷川上流)が所在します。

勝間田氏一族の墓所とされる石塔群(市指定文化財)がある清浄寺は、時宗の道場として弘安6(1283)年頃開基と伝わっています。石塔には南北朝期に建てられた時宗の法名を刻むものがあります。龍眼山砦南曲輪は榛原公園として整備され、土塁・堀切を見ることができます。墓所山腹・砦からは、勝間田氏の海運拠点川崎湊跡・海路とした駿河湾を眺めることができます。

勝間田氏とその武士団の居館位置はまだつかめていません。皆さんも、勝間田川流域と周辺に残る勝間田氏の足跡から、その動向を探索してみてください。



勝間田氏のご子孫も集う城趾祭



勝間田小学校侍ソーラン



勝間田氏一族の墓(清浄寺)



復元された二の曲輪建物跡・土塁

静岡県史跡
勝間田城

中世の牧之原歴史略年表

時代	西暦	和 暦	勝間田(勝田)・横地・相良氏の動向	歴史上の主な出来事
平 安 時 代	975	天延3	相良氏の祖・藤原維兼遠江守となる。	保元の乱 平治の乱 平清盛、太政大臣となる。 源氏の挙兵 平氏滅亡、源頼朝、守護地頭をおく。 源頼朝、鎌倉幕府を開く。
	1112	天永3	工藤周頼(姓藤原)相良氏を称し、相良庄に居住する。	
	1156	保元元	保元の乱が起こる。源義朝の元に 勝田氏、横地氏が参陣する。	
	1159	平治元		
	1167	仁安2		
	1180	治承4		
	1181	養和元	勝田 成長、横地 長重、源頼朝の命により平氏の襲来に備えて遠江国橋本に出陣する。	
	1185	文治元		
	1192	建久3		
	1193	建久4	相良 頼景が九州球磨郡多良木に移る。	
鎌 倉 時 代	1195	建久6	東大寺大仏供養に勝田 成長、横地 長重、將軍源頼朝のお供をする。	承久の乱 鎌倉幕府滅亡 足利尊氏、室町幕府を開く。
	1221	承久3		
	1283	弘安6	平田寺開創。	
	1294	永仁2	勝田 長清の家にて、参議藤原為相(冷泉為相)、和歌を詠う。	
	1310	延慶3	勝田 長清、夫木和歌抄の資料編纂を終わる。	
	〃	〃	平田寺の宝塔に「延慶三年庚戌正月願主沙弥如蓮」の名がある。	
	1312	正和元	勅撰和歌集の玉葉集に勝田 長清の歌が入選する。	
	〃	〃	勝間田字中に「正和元年壬子七月廿九日」と刻んだ供養塔がある。	
	1333	元弘3 正慶2		
	1338	延元3 暦応元		
室 町 時 代	1353	正平8 文和2	勝田 中務丞、今川範国の命により朝夷郷内、浅尾谷を平田寺に返還する。	南北朝統一 応永の乱 永享の乱 応仁の乱
	1392	明德3		
	1399	応永6	応永の乱で勝間田 遠江守奮戦する。	
	1438	永享10	永享の乱で勝田 弾正、横地 長泰、戦死。	
	1449	宝徳元	勝間田 庄中村に開祖勝間田十郎政次が長興寺を建立する。	
	1467	応仁元		
	1476	文明8	勝間田城、横地城、今川義忠により落城する。	
	1500	明応9	斯波氏討伐軍を編成、勝間田 盛次、甲州武田氏に仕える。	

参考資料 勝間田氏物語・横地城跡調査報告書他



勝間田城へのアクセス
■JR東海道本線金谷駅より
しずてつジャストラインバス静波海岸入口行きで20分、中島バス停下車、徒歩20分
■東名牧之原ICより車で15分
駐車場 牧之原市勝田2174-6(P10台有)

編集・発行 牧之原市教育委員会
〒421-0592 牧之原市相良275 Tel.0548-53-2646

かつまた
勝間田氏一族

勝間田(勝田)氏は、牧之原市勝間田川流域(勝間田庄)を治めた在地領主として、平安時代末期保元の乱(1156年)史料に初めて登場します。同族と考えられる横地氏と共に鎌倉時代には御家人、室町時代には奉公衆として活躍しました。しかし、応仁の乱以降、駿河守護の今川氏と対立し、文明8(1476)年に今川義忠の攻撃で本拠である勝間田城が落城します。離散した勝間田氏一族は、現在の御殿場市印野などに移り住み、各地区の発展に尽力しました。一族には鎌倉時代後期、歌人として名を成し「夫木和歌抄(全36巻17,350余首)」を編纂した勝間田(藤原)長清などがいます。

伝説では相良維頼の娘の子が横地太郎家長で、その長男頼兼が横地を継ぎ、次男が勝間田氏を興したといわれています。



勝間田城の構造

勝間田城は、勝間田氏が15世紀中頃に築城したと考えられる戦国時代以前の原型を残した貴重な山城です(1983年2月25日県指定史跡文化財)。牧之原台地に連なる尾根標高100~130m程、勝間田川最上流部に位置します。その規模は東西200m・南北310m、総面積12,695㎡を測ります。

1985年度から数次にわたる発掘調査により、多くの遺構(建物跡・井戸・堀)や遺物(土器・木簡・古銭等)が検出され、築城過程、建物の配置、城内生活の実態を知ることができます。木簡に書かれた文章からは、笠原を姓とする武将の存在や、池田衆と呼ばれる土着の兵力まで城内に在城していたこと、粃や竹を調達して食料や武器・建物に利用していたことなどが推測できます。

本曲輪を中心に狭小である南区域に対し、幅10m程の大堀切を挟む北区域二・三の曲輪は、一区画が広く外縁部に土塁を巡らしています。南区域より後代改修の可能性が考えられます。

東方を向いて配置された堀・土塁・曲輪は今川氏に対する備えといえるでしょう。



①本曲輪 本曲輪は四方を小規模な曲輪と堀切で囲み防御しています。勝間田氏を偲ぶ勝間田神社・石碑・勝間田長清の歌碑があります。



②本曲輪土塁 本曲輪造成時の廃土を内側から周囲に盛り、高さ2m以上の厚い強固な土塁が築かれています。



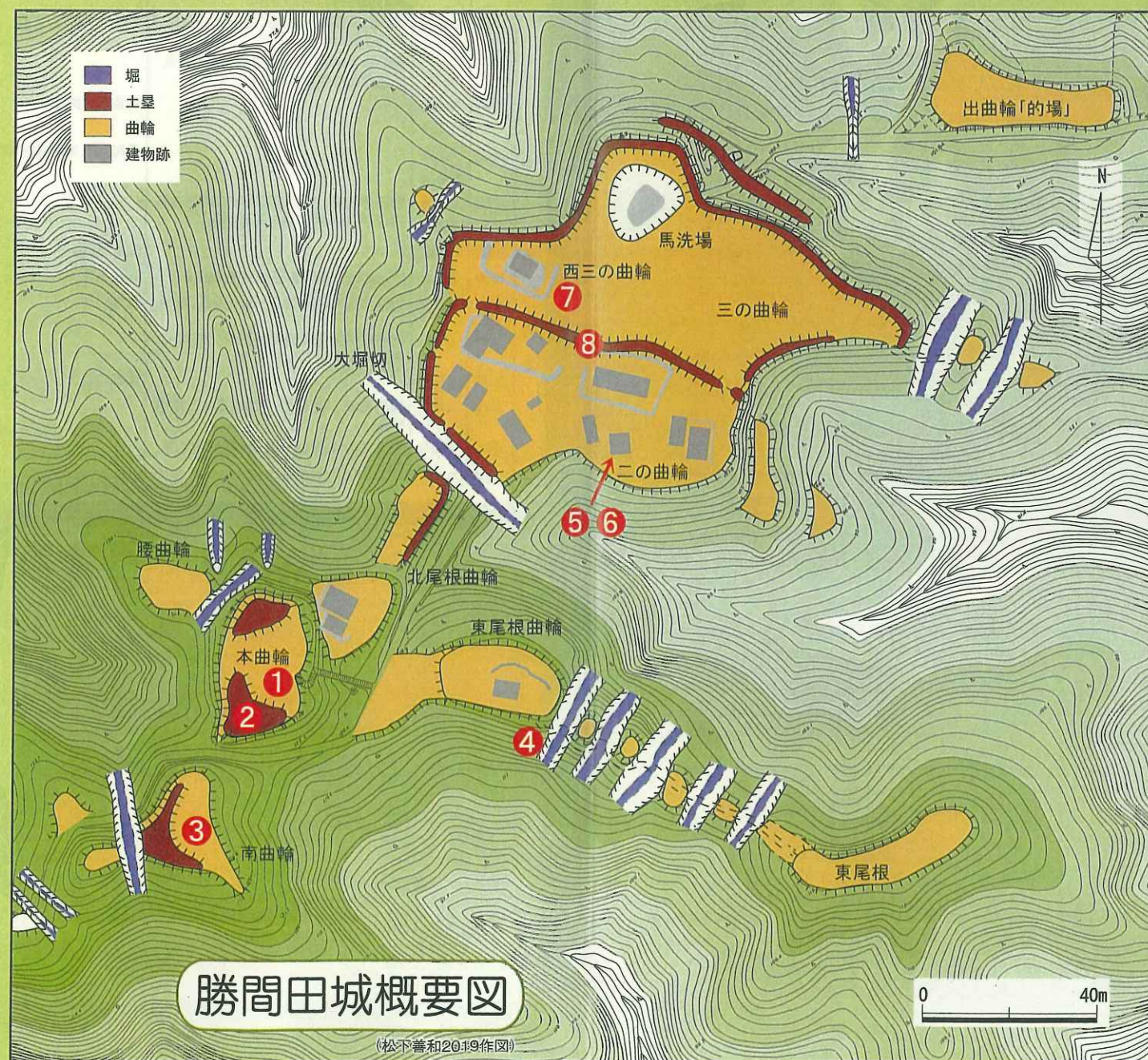
③南尾根曲輪 牧之原台地へ通じる最高所の南端曲輪です。平面が「く」の字状に見える土塁は曲輪西半分を占めます。



④東尾根堀切 鋭く切り込まれた5重の堀切は、東方向からの敵兵進入を防ぎます。東尾根曲輪では、柵に囲まれた物見台が発見されています。



東尾根曲輪より富士山・静岡空港を望む



⑤二の曲輪礎石建物 二の曲輪には複数棟の建物が存在しました。そのうち南端一棟は礎石を利用した丈夫な構造の建物でした。



⑥二の曲輪復元礎石建物 ⑤の礎石建物跡が平面復元展示されています。



⑦西三の曲輪掘立柱建物 三の曲輪は、勝間田城のなかで最も広い曲輪です。火災にあったと思われる掘立柱建物跡、木簡が出土した馬洗場(水場)、井戸が確認されています。



⑧二の曲輪土塁 曲輪を平坦に造成した際の廃土が硬く積み重ねられていました。土塁を挟み、二の曲輪よりも三の曲輪が2m程低い、段違いの地形です。